



社団法人

海外と文化を交流する会

(社) 海外と文化を交流する会会報

2003年12月発行(3ヵ月1回発行)

第21号

”知と心”の繋がりに文化の原点を求めて

日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援 貧しい国々での医療活動を支援 各国大使館との協力などによる文化講演会の主催

事務局 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-27-6 八ヶ丘ビル内 TEL&FAX 03-3370-7654

<http://www.kaigai-bunka.org> e-mail:jimukyoku@kaigai-bunka.org

巻頭詩

おかあさん

まど・みちお (詩人・児童文学者)

まど・みちお：明治42年山口県生まれ。台北工業卒。国際的な評価も高く、「アンデルセン賞」その他数多くの賞を受賞。著書に「ぞうさん」(ぞうさん ぞうさん お鼻が長いのね.....)や、「まど・みちお詩集」「宇宙のうた」ほか多数。動物に関する詩20編は美智子皇后が英訳するなど、話題になりました。掲載の詩は、作者の快諾を得て転載しています。

おかあさんは

ぼくを 一ばん すき！

ぼくは

おかあさんを 一ばん すき！

かぜ ふけ びょうびょう

あめ ふれ じゃんじゃか



寄稿

平和を作り出す海外と文化の交流

ジョージ・W・ギッシュ（海外と文化を交流する会・常務理事）

去る11月22日の創立35周年記念チャリティ・コンサートの開会挨拶を頼まれた時、私は、この海外と文化を交流する会の意義について改めて考えさせられました。

開演の午後1時半になって、皆さんの前に立つと、ちょうどその1週間前の土曜日に、私が、同じ1:30 p.m.という時間に、友達の石井牧師に案内されて、ニューヨークの世界貿易センターの跡地に着きました。そして、しばらくその「グラウンド・ゼロ」の前に立って、黙禱をささげました。そのとき、頭の中に、様々な思いが浮かんできました。特に、40年以上前に、広島原爆ドームの前に、初めて立った時のことを思い出しました。その後、何度も広島や長崎の平和公園を訪ねたことと、その都度、それぞれのそこで起こった悲劇を深く哀しんだことも覚えました。

また、1945年3月10日の東京集中空襲など世界中に今も繰り返されている戦争や暴力による悲劇が続いていることを考えると、胸も痛み、益々悲しい気持ちに陥ってしまいました。なぜ、人間がおなじ人間に対して多数の人々を殺すために、こんな残酷な無差別の破壊攻撃が出来るのでしょうか？ 普通の人だったら、どこの国の人であったとしても、同じ疑問を抱くのではないのでしょうか。

そして、11月22日、秋晴れの陽の下で、代々木の森に囲まれた桃林荘の静けさは今の世界の厳しい現実からは遠く隔離されていると感じました。そこで、人間は、このような平和な環境の中で、静かに……共に……安全に……暮らす事を求めていることが共通の祈りとなっていると思います。この日、鯉沼廣行さんの笛の響きに乗せられ、皆様と共にこの祈りをささげる事が出来たことを感謝しています。

実に、この平和への祈りは、私たちの「海外と文化を交流する会」の一番大切な目的でもあります。会の創立の当初から、日本の中の優れた文化のひとつである日本画を海外の人々に紹介、交流することによって、お互いの理解が深まり、そして、その交流を積み重ねることを通して世界平和への道が開いてくることを願いました。

その後、それぞれの時代のニーズに応じて活動が少しずつ変わってきました。数年前からわずかではありますが、留学生のために奨励金を毎年数名に差し上げることが出来ました。しかし、お金だけの関係は、本当の意味の交流に至りませんでした。そこで、私たちが留学生と直接に交流出来る場を色々工夫しながら、実際に顔と顔を会わせることによってその関係を深めることが出来るようになっていきました。留学生を囲む会などを開いたり、チャリティなどを開催する度に彼らと共に活動することによって、それぞれの文化と人格に触れることが出来、互いをより深く理解することとなりました。

普通の生活の中では、なかなか味わうことのできない、この地味な活動こそが、世界平和へ

の大切な道づくりになると分かって来ました。私たちの「海外と文化を交流する会」のそれぞれの活動の中に、こうした人間と人間との出会いと触れ合いをより日常的に定着して行きたいと願います。

2004年が平和の年でありますように祈ります。

秋のチャリティコンサート「横笛の響き」への感想

2003年11月22日(土)、明治神宮のなかの茶室・桃林荘で、「横笛の響き」チャリティコンサートを、「海外と文化を交流する会」の主催でおこないました。演奏者は横笛の第一人者・鯉沼廣行さんと坂本真理さん。紅葉のみごとな庭園を背景に、すばらしい、こころにしみいる響きをきかせてくださいました。つづく文は、そのときの感想です。

小宮郁子(『礼拝と音楽』編集部、日本キリスト教団出版局)

たくさんの人が期待を胸に息をひそめて待つ静寂の中、風のように篠笛の音が響き始めました。時には凛とした音色で、時には息のように、心をもった音が紡がれていくさまを、皆さんと共に堪能させていただきました。仕事柄、人の声と思いについて、また表現について考える機会が多い者ですが、横笛の織りなす世界に身を委ねることができ、まさに至福の時でした。この日のためさまさまお働きくださった方々に、心から感謝と御礼を申し上げます。海外と文化を交流する会の今後の歩みに、神さまの恵みがありますように。

菅野貴代(会友)

再び桃林荘で、紅葉した庭園を眺めながら横笛の響きを聞き、雑念のない空間に身を置く事が出来て至福の一時でした。前は、庭園に紅葉が舞い散り、お二方の笛の音が回廊を廻って聞こえてくる、と言う様な優美な世界でしたが、今回は、笛から出てくる音と庭に飛んでくる小鳥のさえずりが、耳の奥で協和音となり、幽玄の世界にいる様でした。

開演前のギッシュ先生のお話の様に、世界は様々な危機に直面しています。この様な時に、この静寂の世界は、大変貴重な物だと感じる共に、その瞬間に立ち会えた事を感謝します。

小山美栄(会友)

横笛の響きに、心を洗われる素晴らしいひとときを堪能させて戴きました。まだ笛の音が胸の奥に刻まれていて、夜の静寂にあるときなど、かすかに響いてまいります。

山中靖夫(会友)

桃林荘という普段は入れない素晴らしい環境できく笛の音は格別でした。演奏者の背景の庭の眺めもとても良かった。

劉志興(マレーシア留学生)

笛のコンサートを聴きに行ったことは初めてであり、明治神宮を訪ねに行ったことも初めてでした。全コンサートは約2時間で行われ、その日に出席していた多くの女性の方々は、その2時間にわたりまして身体の動きは全くなくて、正座したまま素晴らしい笛の演奏を鑑賞する

ことは、やっぱり私にとってその精神は見習うべきところですよ。あと、明治神宮は日本の重要文化財として知られ、原宿や表参道は若者に向け、ファッションなどの流行店舗がいっぱい立ち並んでいるので、なぜ二つのモノは全然雰囲気違って同じところにあるか、ちょっと不思議だと思っています。

つどい 「21世紀を語ろう」について

室井鐵衛（海外と文化を交流する会・会長）

11月13日に「つどい」の集まりがありました。語り合うという事は、なかなかその内容といい、つどいの雰囲気といい、思った通りにいかなかったり、また意外な方向に展開するものです。“海外と文化を交流する会”という立場で、いろいろな人が、それぞれの価値観と経験の上で何を語り合うか、それは本当に容易な事ではないように思います。何かを信じ、何かを理解し、何かを感ずることの共通性がなければうまくいくものではないと思います。

11月13日は語り合う会の2回目でしたが、盛んな意見や、経験話や、希望などが交わされました。そこで纏ったことは、日本の文化から価値を考え、そして創るという事でした。これは非常にユニークな結果でした。我々は何かに満足し、理解し、あるいは批判する事が一般ですが、価値を考え、創るということは、知・情・意の結晶として生まれるものです。日本の文化から何が生まれるか期待されるものです。新しい年に新しい展開があることでしょう。

会からの報告 & お知らせ & お願い

懸賞作文当選作は1月に決定

「地球村で生き残るために 日本に期待すること」というテーマで、海外からの留学生から懸賞作文を募集しました。（社）海外と文化を交流する会創立35周年を記念してのプロジェクトで、北海道大学から九州大学まで日本全国の大学および大学院生から公募した結果、65作品が送られてきました。力作ぞろいです。9月の締め切り後、慎重な選考を経て、現在、最終選考8編を残しました。当選者には金賞1名30万円、銀賞7名に各10万円が贈られます。

1月に日野原重明氏（聖路加国際病院名誉院長）、松谷孝征氏（手塚プロダクション社長）、嚮田隆史氏（元朝日新聞論説委員）の方々へ最終審査を委嘱しています。

当選作発表は、全国の新聞社に通知するほか、金賞については3月発行の海外と文化を交流する会会報に掲載、ホームページでも掲載する予定です。楽しみにお待ちください。

留学生奨励金の希望者をご推薦ください

「海外と文化を交流する会」の活動の一つとして、日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援があります。毎年3～5名を支援しています。会員の皆様からの紹介と推薦を受けて、選考いたします。ことしも支援したい留学生を推薦いただきました。現在、慎重に選考を重ねています。推薦者の皆さま、ありがとうございました。決まり次第、推薦者と本人に通知いたします。

大好評「つどい」の次回は1月22日、「つどい」は2～3月

(a) “つどい” 【21世紀を語ろうよ】

これからの日本の進むべき道を探ることを目的として始められたこの「つどい」は、当会室井鐵衛会長を中心に7月17日(木)6:00～8:00・東京銀座・銀座教会集会室で、第2回を行いました。第3回は、11月13日(木)、時間・場所は同様。会費は軽食費込みで1,000円。談論風発、といったふうで、どなたでも参加できます。次回は2004年1月22日、6:00から参加希望あるいはお問い合わせはFAX03-3311-7440室井まで。なお満員の場合もあるので、返信電話あるいはFAX番号を記入してください。

(b) “つどい” 【留学生との交流】

会員の希望にこたえ、当会が支援している留学生を中心に交流の機会を持ち、相互理解を深める「つどい」を行っています。次回は3月下旬を予定しています。場所・日時は決まり次第、お知らせします。お問い合わせは、事務局までFAXかe-mailでどうぞ。

寄付をいただきました

次の方々から当会へ寄付をいただきました。ありがとうございました。有意義に遣わせていただきます。

M & D

小山美榮さん

後藤晶子さん

松岡美智さん

留学生へのプレゼントを……

余っている図書券、金券など、留学生にプレゼントしたいと思っています。事務局までお送りくださればたいへんうれしく存じます。

ホームページ開設

ホームページを開設しています。どうぞご覧ください。

<http://www.kaigai-bunka.org>

会費納入のお願い

2003年度の年会費納入をお願い申し上げます。2002年度の年会費未納の方は、ぜひともご納入ください。高く評価されている当会の活動は、皆さまのご支援あってこそなのです。

郵便振替 00130-2-366249 社団法人海外と文化を交流する会

銀行振込 東京三菱銀行渋谷支店 (普) 2266599 海外と文化を交流する会

会費 10,000 円 (正会員) 5,000 円 (特別賛助会員) 3,000 円 (学生会員)

海外と文化を交流する会事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-27-6 パイビル内

TEL&FAX 03-3370-7654 e-mail:jimukyoku@kaigai-bunka.org